

私は、頑固で意地っ張りで、

なんとも可愛げのない小憎らしい子どもだったようだ。やることなすことが、小生意気で小賢しい子どもというのはいつ時代にもいるものである。殴りたくなる。しかし、殴っては萎縮させるだけである。私は稽古場で、俳優を殴ったり罵倒したりはしない。

人にはだれでも長所と短所がある。その人のいい箇所を伸ば

せば、悪い箇所はなくなっていく。自信を持つと、それが実力となる。そうやって、凄惨な俳優になった人をなん人も知っている。凄惨人間になったといつてもいい。逃げる人は追わない。それだけの人である。他所で別

姉さんは燻て上手で褒め上手の人であった。あの微笑みにあの声である。どんな男でもころつと参るはずである。私もいろいろな和子さんを知っているが、あんなに褒め上手の人はいない。昭和生まれの女の人の名前

と、すぐに私を城山へのドライブに誘った。途中で車が溝に嵌ったりしたが、私は平気な顔をしていた。正直、怖かった。なによりも怖かったのは和子姉さんかもしれない。夕暮れの城山

監督になりたいとは言えなかった。言えは、ころころと笑うに決まっている。私が長崎市を訪ねると、なぜ和子姉さんに連絡をするのか。別に小遣いが欲しいわけではない。あの日の難問に少しづつでも応えたいからである。あの夕暮れの和子姉さんは夕陽に輝いて、青島の観音様にそっくりであった。

憧れの人から難問

の長所を伸ばせばいい。私の癖と性格は死ぬまで直らないのかもしれない。死ぬまで直らないのが癖と性格である。

和昭と和子が多い。男は和昭と和子姉さんは運転免許を取る

聞いた。「耕大ちゃんは大きくなったらなんになる」と。憧れの人からの難問であった。映画

先日、長崎市のジャズが流れる喫茶店で「映画監督をやるかもしれない」と和子姉さんに告げた。和子姉さんは、微笑みながら「よう気張ったねえ」と感嘆してくれた。ジャズは「シン

星鹿の祖母が亡くなってから、私を褒めてくれたのが和子

姉さんである。「あんたは、やればできるとやっけん」。和子

おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。



おかべ・こうだい 1979年に「肥前松浦兄妹心中」で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在住。70歳。

私は「あなたに褒められたくて」生きています。(松浦市出身)